

自由工房

子どもたちの粘土開放日

友の会より寄贈された土練機と1t程の水粘土を使用し、少量での物作りとは違った感覚で粘土遊びを体験する会を実施した。親子での参加を基本とし、午前と午後の2つの時間帯を設けた。技術的指導はなし。

期 間 = 毎月第4日曜日を基本とし本年度は計10回実施した。

講 師 = 石上和弘 (彫刻家)・持塚三樹

場 所 = 当館実技室

参加者数 = 2,558名



ワークショップ

夏休み子どもワークショップ

「形で作ろう 鉄の音色」

概要：金沢健一氏の作品《音のかけら》を体験し、参加者がみずからの《音のかけら》作品を制作するワークショップ (中学生以上の部は、体験のみ)。

小学校低学年 + 保護者の部《音のかけら》を作ろう 28名

7月30日～31日 (10:15～18:15)

小学校高学年の部《音のかけら》を作ろう 26名

8月1日～2日 (10:15～18:15)

中学生以上の部 + 博物館実習生《音のかけら》で遊ぼう 3名 + 18名 = 21名

8月3日 (10:15～18:15)

講師 = 金沢健一 (彫刻家)

場所 = 当館実技室

内 容

- 1 《音のかけら2》(当館蔵)、《音のかけら1》(当館寄託)、《音のかけら6》(当館寄託)、《振動態》を用いた金沢健一氏のパフォーマンスを見る。叩く物、叩く場所、叩き方によって無限の音を鉄から取り出すことができる。
- 2 金沢氏から《音のかけら》についての説明を聞く。なぜ、こういう作品を制作したのか、鉄と音の関係、鉄と人の歴史など、様々な奥深い話。
- 3 同様に《振動態》の説明を聞く。一枚の鉄板をゴムで擦ると、大きな共鳴音が出る。その上に石粉をまくと、擦り方によって、様々な紋様を描き出す。鉄から音が出る振動の仕組みを視覚的に把握できる実験でもある(図1)。
- 4 参加者が《音のかけら》を体験してみる。まずは、手で叩いたり、かけらを持ち上げてみたりして、鉄の感触を確かめる(図2)。そして様々な道具を選んで、好きなように叩き、自分の気に入った音を見つける。叩く、こする、投げる、撫ぜる...やり方は無限だ。
- 5 参加者がみんなの前で、音を発表する。緊張しながら、たった一人でパフォーマンスする。その後、親子、兄弟で、あるいは他人どうしで行い、音による会話をする。ときおり金沢氏が割って入り、即興のセッションとなる(図3)。金沢氏は、ヒントを与えることはあっても、演奏の指導などはしない。表現することは、各自の自由である。《音のかけら》は、誰にでも容易に表現する喜びを教えてくれる作品である。ただ、金沢氏は、子ども達が自分が出した音を最

最後まで聞き届けなかったり、投げやりな態度を取ったりすると、厳しく注意した。表現することは、自由でありながら、同時に厳しさと責任をともなうものでもある。

- 6 いよいよ、自分の《音のかけら》作りに入る。一人ずつ直径50cmの鉄板（約18kg）をもらう。それをどのような「かけら」に分割するか、紙に設計してみる。決まれば、チョークで鉄板に線を引く（図4）。どんな形から、どんな音が出てくるのか、形と音の關係に思いをめぐらせる。
- 7 参加者が引いた線に従って、金沢氏が鉄を切ってくれる。きれいに鉄を熔断するには、高い技術が必要である。作家の卓越した技を参加者は見る。
- 8 ただし参加者も見学だけではなく、金沢氏の助手を務める。切られた鉄のかけらを素早く台車に載せ、水場へ持っていき、水冷する（図5）。焼けた鉄と、立ち上がる水蒸気による火傷に十分に注意する。参加者はこの作業によって、鉄の重さ、熱さ、冷たさを体感する。鉄が冷えたら、切り口のバリをやすりで削ぎ落とす。
- 9 熔断作業の一方で、マレット（ばち）を作る。棒をのこぎりで切って、柄を作る。木球にボール盤で穴をあけ、そこに柄を差し込む。木球には片面にフェルトを張り、硬軟2種類の音が出せるようにする。
- 10 紙で「かけら」の型紙を作る。型紙は「かけら」を組み立てるときの案内になるとともに、《音のかけら》を空間内にどう展示するか、位置決めに用いる重要なものである。
- 11 「かけら」の下にゴムの足をつけて並べれば、自分の《音のかけら》が完成する。それを使って、再びパフォーマンスを発表する。
- 12 室内に、型紙を使ってきれいに《音のかけら》を配置し、全員で演奏する。ひとりで、あるいは複数で、入れ替わり立ち代わり演奏していく。金沢氏が適時、指示を出す。演奏は基本的に即興だ。何を使って、どう叩いて自分の音を出すかは、本人の発想しだい。子どもが指揮して、大人が演奏する。《音のかけら》の演奏には、大人も子どももない。表現することの喜びと責任があるだけである。
- 13 ワークショップ終了後も、参加者の作品のいくつかを、美術館内に展示した。
- 14 静岡県立美術館ホームページに報告書掲載。

www.spmca.shizuoka.shizuoka.jp/event/workj05_2.html



図1



図2



図3



図4



図5

「粘土ワークショップ - 学校のためのプログラム -」

講師 = 石上和弘 (彫刻家)・持塚三樹

場所 = 当館実技室

約1トンの水粘土を使用。体感的なプログラムをとおして、粘土と触れ合ったり彫刻制作のプロセスを知る手がかりをつかむことを目的としている。

開催日	利 用 校	利用者数
5 / 15	清水市立袖師小学校2年	114名
5 / 21	静岡市立東源台小学校5年	95名
6 / 13	清水市立岡小学校4年	38名
6 / 19	清水市立岡小学校4年	35名
6 / 20	清水市立岡小学校4年	36名
6 / 27	静岡市立中藁科小小布杉分校・峰山小学校2～6年	6名
7 / 2	清水市立岡小学校3年	33名
7 / 3	清水市立岡小学校3年	31名
7 / 4	清水市立岡小学校3年	31名
7 / 9	清水市立飯田東小学校5年	96名
7 / 11	清水市立岡小学校5年	95名
8 / 13	西奈児童クラブ1～4年	21名
8 / 13	長田児童クラブ1～4年	15名
8 / 15	千代田東児童クラブ1、3年	13名
8 / 27	麻機児童クラブ1～5年	31名
8 / 27	東源台児童クラブ1～3年	24名
8 / 27	美和児童クラブ1～3年	11名
8 / 27	安東児童クラブ1～4年	25名
8 / 28	新富町児童クラブ1～3年	28名
8 / 28	長田西児童クラブ1～3年	32名
8 / 29	城北児童クラブ1～4年	33名
8 / 29	中央児童クラブ1～4年	28名
8 / 29	瀬名児童クラブ1～4年	30名
9 / 3	清水市立船越小学校6年	115名
9 / 25	清水市立有度第二小学校3年	65名
9 / 26	清水市立有度第二小学校3年	65名
10 / 3	静岡市立井宮小学校5年	90名
10 / 10	静岡市立中藁科小学校3年	16名
10 / 16	大井川町立大井川西小学校4年	62名
10 / 22	静岡市立一番町小学校1、2年	42名
10 / 23	静岡市立千代田東小学校5年	114名
10 / 29	焼津市立焼津西小学校	162名
10 / 30	清水市立岡小学校2年	112名
計		1,744名

移動子どもワークショップ

講師 = 石上和弘 (彫刻家)・持塚三樹

高杉憲夫・浮田千鈴

移動美術展の開催にあわせ、開催地の小学校で粘土ワークショップを開催した。粘土に親しむ従来の目的とは別に、なかなか県立美術館まで来ることが出来ない遠隔地の子ども達に美術館を紹介する役割を果たすことを目的とした。

開催日	開 催 校	利用者数
8 / 14	小山町総合文化会館菜の花ホール	67名
8 / 15	小山町総合文化会館菜の花ホール	61名
8 / 16	小山町総合文化会館菜の花ホール	72名
9 / 12	御殿場市立朝日小学校	167名
9 / 13	御殿場市立富士岡小学校	185名
9 / 24	引佐町立田沢小学校	21名
9 / 27	引佐町立奥山小学校	46名
10 / 1	三ヶ日町立西小学校	166名
10 / 2	三ヶ日町立尾奈小学校	75名
10 / 4	三ヶ日町立大崎小学校	58名
計		918名



粘土遊び

講師 = 増田洋子・遠藤寿恵・北原三沙子

場所 = 当館実技室

平成14年度開始。粘土ワークショップの内容を、園児向けに改めて実施した。親子遠足としての利用もあった。

開催日	利用園	利用者数
5 / 8	第二ふたば保育園	33名
5 / 14	矢部保育園	44名
5 / 15	リリー幼稚園	100名
5 / 16	嶺保育園	53名
5 / 22	瀬名川保育園	86名
5 / 23	ひばり幼児園	33名
5 / 30	こまどり幼稚園	32名
6 / 4	日本平幼稚園	100名
6 / 4	ゆりかご保育園	8名
6 / 5	一番町保育園	84名
6 / 6	丸子幼稚園	34名
6 / 6	ゆりかご保育園	12名
6 / 11	日本平幼稚園	95名
6 / 12	静岡パプテスト幼稚園	43名
6 / 12	若杉幼稚園	96名
6 / 18	矢部保育園	45名
7 / 10	丸子幼稚園	22名
9 / 10	小河内幼稚園	50名
9 / 11	リリー幼稚園	87名
2 / 25	てるみ幼稚園	83名
計		1,140名



粘土遊び以外にも様々な学校向けのメニューを用意し利用していただいた。以下がその利用状況である。

鑑賞授業

- ・川根町立笹間中学校のTV電話システムを利用したロダン館鑑賞授業 9月
- ・当館収蔵作品の金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップ
- ・「ブロンズ彫刻の作り方」ビデオとロダン館の鑑賞を組み合わせた授業
- ・盲学校の「彫刻をさわって鑑賞するプログラム」の利用
- ・130校が展覧会の鑑賞に来館し、そのうち14校に展覧会のオリエンテーションを行った。

施設見学

- ・普段は入れない美術館の裏側に案内し、知られざる美術館の姿を紹介する「裏方ツアー」
- ・館内のバリアフリー施設を見学する「バリアフリー体験」
- ・学芸員の仕事を体験する「職場体験」

ロダン館スケッチ・デッサン

- ・中学校の美術部、専門コースのある高校が実施した。

貸し出し

- ・展覧会の事前学習などに利用していただくための、スライド、図録などをセットにした「鑑賞キット」「ビデオ」の貸し出し
- ・粘土ワークショップを自校で開催するための粘土、土練機などの貸し出し

先生が利用するプログラム

- ・粘土ワークショップを自身で指導されたい先生の為の「教員研修会」 6月
- ・展覧会の内容を授業などに活用したいと考えている先生のための「ティーチャーズレクチャー」
- ・美術館利用の方法について説明する「学校ガイドス」
- ・子ども達が利用するセルフガイドを先生と学芸員が共同して制作する事業 5月

出張授業

- ・学芸員の仕事について紹介する進路講演会に招かれた。
- ・学校に出張しての「美術講座」

利用状況

月日	団体名	内容
4 / 8	静岡女子商併設中学校	鑑賞キット
4 / 20	12校 (大トルコ展)	T・レクチャー
4 / 25	富士宮市立富士宮第二中学校	鑑賞キット
5 / 14	掛川市立掛川東中学校	体験学習
5 / 15	清水市立袖師小学校	音のかけら
5 / 18	静岡県立盲学校	触察
5 / 19	静岡県立静岡中央高等学校 (通)	裏方ツアー
5 / 19	富士宮市立富士宮第二中学校	鑄造ビデオ
5 / 21	静岡市立東源台小学校	彫刻の見方
5 / 23	三島市立南中学校	体験学習
5 / 25	17校	学校ガイダンス
5 / 28	清水市立第七中学校	体験学習
6 / 3	福田町立豊浜小学校	鑑賞キット
6 / 8	東海大学第一中学校	デッサン
6 / 10	静岡県立中央養護学校	鑑賞キット
6 / 11	常葉学園菊川高等学校	デッサン
6 / 13	島田第二中学校	出張授業
6 / 13	2校	教員研修会
6 / 13	静岡市立高松中学校	ビデオ
6 / 15	14校 (相國寺展)	T・レクチャー
6 / 17	大井川西小学校	鑑賞キット
6 / 19	1校	教員研修会
6 / 20	3校	教員研修会
6 / 24	浜北市立浜名小学校	鑑賞キット
6 / 29	静岡市立大里中学校	セルフガイド
7 / 1	藤枝市立高洲南小学校	鑑賞キット
7 / 6	静岡市立川原小学校	相談
7 / 7	静岡市立川原小学校	相談
7 / 9	清水市立飯田東小学校	デッサン
7 / 11	清水市立岡小学校	デッサン
7 / 14	静岡市立玉川中学校	ビデオ
7 / 23	静岡市立城内中学校	職場体験
7 / 28	2校 (今、ここにある風景)	T・レクチャー
8 / 1	焼津市立豊田中学校	デッサン
8 / 6	東海大付属幼稚園・小・中学校	ロダン制作
8 / 6	清水市小学校教育協会図工班	夏季研修会
8 / 7	東海大付属幼稚園・小・中学校	ロダン制作
8 / 8	東海大付属幼稚園・小・中学校	ロダン制作
9 / 15	2校 (吉田博展)	T・レクチャー
9 / 24	川根町立笹間中学校	TV電話鑑賞授業

月日	団体名	内容
10 / 8	大井川西小学校	出張授業
10 / 16	静岡市立東源台小学校	裏方ツアー
10 / 24	静岡市立東豊田中学校	裏方ツアー
11 / 2	15校 (印象派のあゆみ)	T・レクチャー
11 / 26	静岡市立東源台小学校	樹名板設置
12 / 5	清水市立有度第二小学校	樹名板設置
12 / 10	静岡市立東源台小学校	バリアフリー調査
2 / 5	静岡市立大里中学校	探求学習
2 / 6	静岡市立長田南中学校	社会見学
2 / 10	静岡聖光学院高等学校	鑑賞キット
2 / 24	東海大学第一中学校	鑑賞キット
2 / 27	静岡市立城内小学校	社会見学
2 / 28	清水市立辻小学校	バリアフリー調査
3 / 1	5校 (きらめく光)	T・レクチャー
3 / 6	静岡理工科大学	相談
3 / 11	静岡県立浜松江之島高校	デッサン
3 / 22	常葉学園橘高校	デッサン



《音のかけら》を用いたワークショップ